

第2回大阪狭山市教育振興基本計画策定委員会 議事要旨

日 時：平成25年11月18日（月） 午前10時00分～午前11時50分

場 所：大阪狭山市役所 第1会議室

出 席：委員

今西委員長、新坊副委員長、大方委員、安藤委員、山田委員、山村委員、松島委員、
花田委員、片本委員、菊屋委員、青森委員、田畑委員、小谷委員、竹口委員、車谷委員、
柳委員

：事務局

橋上教育部長、田中理事、谷理事、教育総務グループ能勢課長、こども育成室松本室次
長、上尾主幹、隅谷

：コンサルタント

次 第 1. 開 会

2. 審議事項（資料1・資料2）

大阪狭山市教育振興基本計画策定にかかる市民アンケート（案）

3. その他

今後のスケジュール

・アンケートに関する意見の締切り

・次回会議予定について

4. 閉会

1. 開会

2. 審議事項（資料1・資料2）

大阪狭山市教育振興基本計画策定にかかる市民アンケート（案）

事務局より、資料1、資料2に基づいて説明。

委員長：ただ今の説明について、今回は意見をうかがい、修正等していく形になる。意見はないか。

委 員：内容の審議の前に、トップページにおける大阪狭山市教育振興基本計画という文言があるが、市民の目線に立ったとき、言葉の意味が理解されるのか。こういった目的でこの計画が立てられるのか、そのような説明文を入れてはどうか。

委員長：初めて市民の方がこれを見た時に、教育振興基本計画とは何かという戸惑いがあるかも

しれないといった意見であるが、他に関連して何か意見はあるか。アンケートに入る前の部分になるが。

委員：15 歳以上の市民の観点となっているが、15 歳以上にした理由と、あらかじめ抽出された対象者の抽出方法を伺いたい。

委員長：15 歳以上の年齢が特定されている理由、あらかじめ抽出されているということがどういうことなのかについて説明を。ここに関連して他にないか。では、事務局から説明を。

事務局：最初の質問であるが、全くその通りと考えるので、教育振興基本計画とはどのようなものか、説明を追加させていただく。

委員長：教育振興基本計画は、我々委員にしてもなかなか耳慣れない言葉で、2006 年末に教育基本法が改定され、そこで初めて必要を述べたもので、日本の国民にとってもまだ理解が広がっていないところであるので、大勢の市民の方々が疑問を抱くのは当然のことと思われる。市民啓発も含めて十分な説明をしていただき、より良いものにしていく意味で市民アンケートを原資料とすることを住民の方々に伝えていただきたい。方法については、例えばプリントを配るとか、広報誌に掲載するなど考えられる。次は 15 歳以上の設定について。

事務局：小中学生までは、学校で意見を聞くことが可能である。15 歳以上というのは、高校生という考えをもっており、そういった観点から 15 歳以上ということにしている。無作為抽出というのは、住民基本台帳で、ある程度の間隔をあけて 1,000 人を選ぶということである。

委員長：小中学生については、学校教育の方で、一定程度把握できる、傾向が分かるということである。他に意見・質問はあるか。

委員：15 歳以上の方に対するアンケート項目が少ないように感じる。家庭・文化面など、答えられるのは教育に関することぐらいではないかと思う。15 歳以上であることに引っ掛かりは感じる。

委員長：対象年齢とアンケートの中身から見て、少しそぐわないという意見であるが、事務局や委員の方から何か意見はあるか。

委員：15 歳以上で抽出する時に、男性・女性など、分けて何人、年齢など、その辺りの配慮はあるのか。

事務局：入っている。

委員長：無作為の標本抽出で、層化標本抽出ということでいいのか。

事務局：5歳刻みで、住民基本台帳上の男女比率の割合を基に抽出する。

委員長：層化標本抽出法ということで、委員の意見は反映されるということである。15歳以上の問題であるが、例えば20歳以上といった意見もあるかと思うがいかがか。15歳以上ということではよろしいか。他に意見はないか。少し15歳以上の方にとっては難しいと思われる箇所もあるが。

委員：高校生の意見は聞いてみたいと思う。

委員長：高校生の意見も聞いてみたいという意見もある。他に意見はないか。それでは次のページである。まずフェイスシートの部分である。フェイスシートは回答者について聞いている箇所である。私からの質問だが、1,000名については、全てクロス集計をかけるということでいいのか。

事務局：はい。

委員長：全体の結果はもちろん、男性はこう、女性はこうといったように、P2のカテゴリーに応じて、詳しい結果を出していくことをクロス集計という。優位な結果が出ることを期待している。特にP2について何かあるか。

委員：問3「8. 小学校区がわからない」において、町名を記入していただく箇所があるが、町名だけで小学校区を把握することはできるのか。

事務局：同じ町名で小学校が分かれている所もあるが、地番まで書いてしまうと特定される恐れがあるので、この範囲で聞くに止めている。

委員長：あまりこういった項目において深く入りすぎるのは問題であるとも考えられる。特にこの部分が全体において大きく影響を与えるとも考えにくい。

委員：「わからない」と「知らない」は同じことになるのか。このようなアンケートにおいては、どのように受け止めるのか。

委員長：「わからない」と「知らない」のニュアンスの違いをどのように受け止めるかということである。一般の市民の方々には微妙なところがあると思われる。

事務局：この設問が肯定意見か否定意見かというところが大きく知りたいところである。それ以

外の方もいるとは思いますが、それについて「知らない」か「判断をしかねる」方がいらっしやるということで、まとめた経緯はある。言葉の意味自体は違うものではあるが、判断しかねる方という意味での項目となっている。

委員：「わからない」と「知らない」という結果が多く出た時、アンケートの場合はどういった解釈をするのか。

委員長：普通の調査ではNという記号を使い、「わからない」「知らない」は項目に無く空白である。分からない場合は答えないという方式であったが、今回は明確に「わからない」と「知らない」の項目が作ってあり、新鮮な気持ちで見ている。従来はその項目について印をつけていなかった。今回の特徴はどちらかをはっきりさせたいというものである。後に出てくるがP3のように「そう思う」「そう思わない」のように二分法で分かれていて、このような流れもあつてのことだと考えている。それではP3以降の本文についてである。

委員：問7について、子どもが社会人で所帯を持っている場合はどれに該当するのか。

委員長：この場合は「7. 社会人の子ども」に該当すると思われるが、他の方の意見はあるか。

委員：「子ども」の定義をどの範囲まで考えているのか。

委員：ご子息ということか。「お子さん」と書いているから分かりづらい。

委員長：この箇所については検討願いたい。P3・4について何か意見はあるか。

委員：P3の項目の順番について、「1.」と「8.」～「10.」について、項目を固めてはどうか。また、「10.」豊かな心に鍵括弧をつけると整合が取れるのではないか。

事務局：順番について、国の教育振興基本計画では方針を4つ挙げており、その中で「生き抜く力」について言及しているのだが、文言としてやや強く響いてしまうので「生きる力」とした上で、まず総合的な観点から聞くような設問にしている。そして就学前・小・中の段階を経て、教育委員会で示している「学力」「体力」「豊かな心」を示している。

委員：国の問題ではなく、アンケートを答える市民の目線で考えていただきたい。

委員：設問がバラバラに感じる。

委員長：国のことを聞いているわけではなく、大阪狭山市の教育の中身を聞いているので、必ずしも国に合わせる必要はないのでは。作成時には国のことも配慮されたとは思いますが。

副委員長：一般市民に対するアンケートで、お子さんが就学されている方や高齢の方もいらっしゃると思うが、「生きる力」や「幼保一元化」といった文言が理解されないのではないか。「学ぶ力」「体力」「豊かな心」は3つで「生きる力」と重なるのではないか。

委員長：まず、言葉として一般の方に難しいのではないか。「幼保一元化」「ケアサポート」などといった用語について、これは難しいのではないかと私も思う。「就学前」については下部に説明があるが、このようにしてはどうか。市民目線から難しい用語は他にないか。

委員：この場合、答えは「わからない・知らない」となり回答はしやすい。これを求めているのであれば、アンケートとしては不自然ではないと思うが。

委員長：できる限り理解の上で回答していただきたいので、文言の説明を挿入する形でお願いしたい。他にないか。私は「ケアサポート」が難しいと思うが。

委員：小中学校の教育環境が充実しているとあるが、教育環境というのはおおざっぱではないか。教育環境と言われて何を連想するのか。

委員長：我々が大学で学生に教える時には「物的条件」「人的条件」「運営的条件」と教えるが、市民の方にこの言葉を使うには問題があるので、抽象的な表現になりがちである。教育環境については注釈が必要だと思う。

委員：全てを含めて充実していると思うのか、個々として、学校の設備や、先生は頑張っていることを問うのか、曖昧ではないか。

委員長：この部分については、全体的に意見をまとめて整理していただきたい。P 3～4にかけて。特にP 4においては難しい箇所はないと思うが、いかがか。

委員：P 3～4はカテゴリーとして大きなイメージを聞き、P 5以降は各論に入っていくように思う。大項目のイメージとしての聞き方と、各論の聞き方が重複しないようにしないと、説明しすぎるとカテゴリーの意味が違ってくる。市民として分からないなら分からないなりにイメージを、感覚的なものを答えていただき、P 5以降を具体的に聞くということで。事務局が整理される時に、この点を考慮していただきたい。

委員長：各論的に聞くこと、総論的に聞くこと、このような点を含めて整理をお願いします。

委員：P 3～4にかけて、現在の取組みとして具体的に聞いている箇所と、大ざっぱに聞いている箇所が散見するように感じる。全体にみて知識を問うているのか、実際行われている取組みを評価しているのか、中心が分かりにくい。質問項目について、問8の設問文

について「大阪狭山市の教育における現在の取組み」を聞くなど、項目をはっきりさせればより分かりやすいのではないか。

委員長：大阪狭山市における教育だけでなく、教育や学習活動、文化・スポーツといった文言も必要でないのか。P 3～4 に関しては、やはり整理が必要と思う。

委員：P 3～4 において大きく意見を聞いて、P 5 以降は個々に対して聞いていると捉えて良いか。そうすると、質問形式として一つの大きな項目をまず終わらせてから次の項目に行くような形はできないか。

事務局：P 3 の直後に問 9 のような具体的な項目を聞き、その後 P 4 を聞いて生涯学習の項目を問う形式ということか。

委員：現状の形式は一般的なもののなか。市民感覚でいくと頭の切替えが必要だと感じる。バラバラに聞かれているように感じる。アンケートの流れの変更は可能か。

事務局：そのような構成も検討させていただく。意図として、答えやすいというのは冒頭からある。まず自身について答えやすい項目から、そして五段階評価で主観的に答えやすいものを並べ、P 5 以降は少し細かく考えていただく構成となった経緯がある。答えやすい流れもあるかと思うので、検討させていただく。

事務局：問 8 については、現在の教育に対する市民の方のお考えを把握したいということがまずあり、その上で各項目について、市民の方の声を反映させるための項目だと理解し提案させていただいている。よく検討した上で反映したいと思っている。

委員長：全体として答えやすいように集約していただきたい。他にないか。

副委員長：問 8 の「15.」は全部聞いていることであるが、必要な項目として捉えられているのか。

事務局：最後に教育に関する取組の評価を聞きたいということで入れさせていただいている。

委員長：この箇所も検討いただきたい。また、大阪狭山市の文化活動の熱心さはどこに入っているのか。例えば狭美展、ソロコン、音楽・美術など芸術関係のレベルが非常に高い、南大阪でも非常に優れた街だと思うが、その文化はどこに入るのか。

事務局：厳密に申し上げると、市民文化の振興が教育委員会の守備範囲ではないということがあ。カテゴリーの関係で市民文化の項目が入っていない状況である。

委員長：直接計画に反映するかは別として、文化担当の了解を得られれば良いのではないか。こ

の街の「売り」であると思うのだが、いかがか。P 5～6について、何かあるか。

委 員：問 9 について、高校生の視点が欠けているように思うのだが。

事務局：「理想とするさやまっ子像」を把握したいという項目で、自分がどのような子どもになりたいかと理解することもできる。

委 員：そうであれば、「あなたはどのような子どもになりたいか」という文言を追加すればいいのでは。

委員長：文章を追加して答えやすいようにするということであると考えて。私は少し違った意見になるが、「どのような力を人間として身につけたいか」といった聞き方をすると思う。この箇所も検討をお願いしたい。他にないか。

委 員：問 10 では就学前教育・保育、問 11 では学校教育のことについて聞いているが、問 10 では「小学校への円滑な移行」とあるが、問 11 では「小中の連携」といった言及がないので、入れられるのであれば入れていただきたい。そして問 11 における項目「12. 地域に開かれた学校運営」について、どういったことなのか、一般市民からは理解しにくいのではないか。「地域と連携した学校運営」のようににはできないものか。また、「関係団体と学校の連携」といった項目も追加していただければ。

委員長：もう少し分かるように、具体的な表現にしていきたいとのことであるが。

委 員：全部に通じて言えることだが、専門的な用語が多い印象があるので、一般市民には理解されないのではないか。注釈をつけるなど対応が必要だと考える。

委 員：教育に関わっているからこそ理解できる内容がほとんどで、子どもが中高と離れていき、教育と全く関係のない生活をしている市民にとっては、頭を悩ませるアンケートだと思う。無関心な人がどれくらいいるのかを知るにはいいのかもしれないが。

委員長：「小中連携」「地域連携」にしても、分かりづらいと思う。言葉について、もう少し考えていただければ。他にないか。

委 員：学校教育の中で、人権に関わるキーワードが見当たらない。そこが狭山の教育の中で弱いところかと現場にいると思う。そういった項目も入れていただけたら。

委員長：いじめや不登校についての言及はあるが、命の大切さのような人権的な観点が少ないのではという指摘である。また、問 12 は必要なのか。将来的な計画を作っていく中で、できる限り実現可能な夢を我々は作っていくべきだと考える。これはその観点からすると

反対ではないか。入れる必要があるのか。

事務局：ここは議論のあったところで、就学前の児童に対するアンケートを実施しているところであり、そこでも設問として入れており、どうしても少子化というのは目に見えている。質問に固執するわけではないので、皆さんの意見を頂戴したい。

委員：「1. 統廃合もやむを得ない」の項目が最初にあるが、市としては統廃合したいという意見からきているのかと受けとめてしまう。

委員：2年程前に「子ども未来検討委員会」という幼稚園と保育園の会合を持って、その時に幼稚園の少子化問題や統廃合について話をさせていただいた。その時の答えは出ており、幼稚園の人数が少なくなったので、山本幼稚園は廃園という方向になった。それ以上に教育委員会は聞きたいのか。内容を詰込み過ぎではないのか。参考にしていれば。

委員長：P 6～7の家庭教育も含めて、意見があれば。

委員：問13や問14について、必要な取組みを聞いているが、実際に取組みが実行される場合、回答者本人はどのように関わっていけるのか、そのようなことを聞く設問が必要では。

委員長：市民協働を謳っておられる街なので、市民の主体性をどう汲取るのか、行政がどれだけ支援するのか、そういった観点を入れていただき、家庭教育・地域教育を聞いていければと思う。

委員：少なくとも市民がお客さんであっては困ることなので、ここはきちっと聞いておくべきことではないのか。

委員長：一人ひとりの社会参加、社会貢献を意識していただくと。他にないか。それではP 8～10について。

委員：P 4の生涯学習の注釈であるが、長文で分かりづらいのではないか。生涯学習・文化活動・スポーツ活動、その区別が曖昧でP 8～10につながらないのでは。答える方からしたら答えづらい。スポーツでは、専門的な競技スポーツはどうなるのか。バラバラに思う。

委員長：例えばスポーツという言葉がP 8から出てきて、詳しいことはP 10で聞いていて良く分からない。そもそも生涯学習の概念が分かりにくいところがあり、文化という言葉も元々は1960年代後半から1970年代にかけて、「文化」と「生涯学習」は歴史的に同じ意味であった。「生涯学習」という言葉が出てきたのは、1965年のユネスコの宣言文から出てきている。それまで「生涯学習」は「文化」という概念で使われていた。日本におい

ても「文化」と「生涯学習」の明確な区分ができていない。これが現状である。かつて「大阪府立文化情報センター」があったが、正確に言うと「大阪府立生涯学習情報センター」となる。当時は「生涯学習」という言葉は使っていなかった。言葉が混乱している現状があると思うので、生涯学習・文化・スポーツをまとめて整理するという形でどうか。他にも意見をいただきたい。

委員：問 20・問 21 について、先程と同じように、市民の一人としての活動意思を聞いてはどうかと思う。

委員長：こういう調査は啓発的な要素もあるので、必要な意見だと思う。他に意見は。

委員：P 8 の問い方の順番だが、活動を聞いた上できっかけを聞いた方が答えやすいのでは。

委員長：それでは P 11 に移る。大阪狭山市や市の将来についてだが、いかがか。

委員：問 22 について、「ふるさと」というのは人によって感じ方が違うと思う。おおざっぱに「ふるさとと思うか」と問われた時に、微妙な回答になってしまう。表現に工夫が必要では。

委員長：「ふるさと感」は人によって違うので、難しいと思う。

委員：「愛着を持ったふるさととを感じるか」のように説明がほしい。

委員：「愛着を感じますか」のように。

委員長：「まちに愛着を感じますか」のように、具体的な言葉で聞いた方が望ましいかと思われる。

委員：質問の意図がおおざっぱで、余計なことを考えてしまいそうになる。

委員長：教育基本法の第 2 条では、「伝統と文化を尊重し」と謳っており、その部分に結びつくことかと考えていたが。P 11～12 についていかがか。

委員：問 24「1. 家庭の教育力を高めるための大人への教育の充実」について、「大人」というのは、親のことか。

委員長：通常、成人教育と言われるところであるが、対象はどうかという質問である。一般的には親であり、家族であり、地域の住民であり、街全体の大人という意味になる。私はそう思うのだが。

委 員：学校教育の現場以外の大人か。

委員長：それも含めてである。

委 員：それに関連してだが、「1.」の家庭の教育力に関する項目とともに、「2.」に地域の教育力について言及する項目も入れていただきたいのだが。

委 員：P 5、P 6 と重なってこないか。

委員長：かなり重なってくる。

委 員：二度聞きしている印象になるが。

委員長：全体として重複が多くみられる。ぜひとも整理していただきたい。

委 員：問 24「10. 青少年の健全な育成に関する事業の充実」とあるが、青少年の健全な育成というのが大ざっぱである。地域の祭りなどのふれあいが青少年の健全な育成になる時や、問題のある子供を補導することが青少年の健全な育成になる場合がある。一般市民の方が青少年の健全な育成を聞いたとき、何を連想するのか。もう少し噛み砕いた表現はできないものか。

委員長：行政用語で「青少年健全育成」という言葉はあるが、また「健全」という言葉を使うか使わないかの議論もあるところではある。従来の祭りなどの社会教育の中で子どもを育ててきた歴史的側面と補導的側面があるので、そこを整理していただければと思う。

副委員長：問 13 と問 14 において、この聞き方でいくと、「家庭の教育力」と「地域の教育力」が現状では低いものと誤解されはしないか。問い方の工夫が必要では。

委員長：この設問の文章を考えていただければと思う。

委 員：問 13～16 について、ニーズを問うている中で、問 15 だけ地域の子どもとの接し方を聞いており曖昧というか、設問の意図を汲取れず、違和感を感じる。

委員長：市民協働の街ということで、住民の方一人ひとりが当事者で、教育サービスの供給者であるということ、当事者意識の啓発ができるようなアンケートであってほしいと強く思う。かなり整理してもらうことは多いかと思うが、意見を出されていない委員の方はいかがか。

委 員：問 12 について、意見を聞いてどうこうできるものではないので、不必要と考える。

委員長：統廃合について、まとめることが悪いことではないという意見である。

委員：自由記述や、各設問にその他を記入していただく欄があるが、大項目ごとに自由記述の欄を設けてはどうか。設問以外の意見も聞けると思うのだが。例えば大項目「3. 就学前教育～」についてその他の意見を聞くことができると思うが。

委員長：この調査は数量的な調査になるので、一般的にはこのような形での調査になることをご理解願いたい。

委員：P3について。項目が並んでおり、漠然と皆さんがどう思っているのかは知りたいところであるが、一つひとつの項目について、詳しく知っていないと答えづらい印象があった。あと、幼稚園と保育所については分けていただいた方が答えやすいと思う。統廃合について、園としての立場はやむを得ないという結論は出たが、もし統廃合が進んでいったとして、それが本当に地域に開かれた学校園であるのかどうか、よく分からない。

委員長：ほかの委員はどうか。

委員：現場の人間として言うと、大阪狭山の教育は上向きであると感じている。委員長がおっしゃるように、生涯学習・文化の面でもすごく積極的であると思う。これからさらに良くするための資料になってほしいと思うし、そういった切込み口を提言できるようなアンケートになればと思っている。否定的な意見はたくさんあると思うが、前向きな声を聞けるようなアンケートになってほしい。

委員長：未来の大阪狭山市をつくっていくという意味で、前向きな意見を、取っ掛かりを集められるようなものになってほしいと思う。

委員：毎日、様々なアンケートに答えているが、長いアンケートとなると、途中で嫌気がさしてくる。これを自分が答えた場合、大変だと思う。もう少し分かりやすく、答えやすくしていただければと思う。

委員長：全体的に流れていくような内容を願う。今日は専門の委員の方に集まっていたいが、答えるのは一般市民の方になるので、全体の構成も含めて、もう一度検討をお願いしたい。

委員：このアンケートの回答時間の想定は。

事務局：だいたいじっくり考えて30分くらいと想定している。

委 員：私は 40 分かった。文言等分らない箇所を考える時間がかかったところはあるが。

委員長：整理して簡素化していただくということで。

委 員：回収率の想定はどれくらいか。

事務局：行政の行うアンケートでは 40%以上、できれば 50%以上が理想である。最低で 40%はほしいと思っている。

委員長：大阪狭山市のこういうアンケートの回収率は高く、私が数十年前に社会教育調査を行った時は、回収率が数十%であったこともあり、大阪狭山市の回収率の高さには驚いている。人権の時も高く、あらゆる面で住民が積極的だと感じている。

委 員：私も同じ内容を聞きたかった。40%、目標は 50%というのは他と比べてどうなのか。

委員長：社会調査としては高い方になる。

委 員：回収率が 40%となった場合、それを市民の総意として考えるのか。

委員長：だいたい分かる。

委 員：それが仮に 10%だったとすると、どのように考えるのか。

委員長：統計的な誤差率はあるが、今回は数字を求めるのではなく、数字による傾向を見ながら我々が計画を策定していくということであるので、少しの誤差であれば客観的にみて問題ないと思う。

委 員：問 25 について、文章のつながりを考えて、「生涯学習の一環として」という文章を追加してはどうか。また、次の問 26 について「イメージをご記入ください」とあるが、イメージと言われても分かりにくいと思うが。

委員長：ここも検討願いたい。時間も迫っているので、最後に専門の方から何か助言等あれば。

委 員：見やすいように作ってあると思う。あまり説明を入れ過ぎ文字数が多くなって、回答に支障が出ることも考えられるので、入れ過ぎて空白がなくならないよう、用語についても行政用語を避けるなど配慮していただきたい。また、皆さんがおっしゃるように前向きなものであってほしいと思う。P 5 問 10 に関して、「1. 基本的な生活習慣の定着」は子どもの育ちの視点、「5. 保育所・幼稚園教諭の資質の向上や人員体制の充実」は教職員の質といったように、視点の混在があるように感じる。子ども自身のことなのか、

組織のことについてなのか、また視点の重複も含めて検討していただければと思う。

副委員長：一般市民に対するアンケートなので、平易な言葉で、簡潔に答えられるようにしていただきたい。もう一つ、これは大阪狭山市の教育施策に対する意見をいただく場なのか、今後の大阪狭山市の教育行政の方向性を聞くものなのか、大阪狭山市にお住まいの方の教育に対する意識や考えを聞かせていただくアンケートなのか、設問によっては混在している部分もある。そこを明確に捉えていただければと思う。

委員長：貴重な意見をいただいた。ご意見はまだあると思うが、できるだけ早い段階で意見を事務局の方へ言っていただき、それをまとめていただくという形の進行でまとめさせていただく。今後については、事務局より願います。

3. その他

今後のスケジュール

- ・アンケートに関する意見の締切り
- ・次回会議予定について

4. 閉会

以上